月刊 JMITU ディスカ

新型コロナ対応版

2月号

日本金属製造情報通信労働組合大田地域支部
セガ　グループ分会　2021年発行

No,434

2021年春闘
夏季一時金要求提出
新たな新人事制度良くなったのか？

２月２４日セガ、ＳＬＳに春闘・夏季一時金要求を提出しました。

賃上げ要求

本人給を２万円、評価給を３万円引き上げること。ただし査定を行わないこと。

アルバイト・パートタイマーの時給を一律２００円引き上げること。

夏季一時金

２０２１年度の夏季一時金として、賞与資格別基準額を２万円底上げし、係数４．０を支給すること。ただし査定を行わないこと。及びパートタイマー、アルバイト従業員にも、夏季一時金を支給すること。

セガにおいては、今年の４月より新たな新人事制度の仮運用を開始し（新等級での仮格付けを行い１年間新評価制度運用）来年４月より本格付けに移行し報酬制度も対応される。

今回の新人事制度導入について社長は、単に新生セガとして３つの人事制度（旧ＣＳＯＬ人事制度、旧ＳＩＣ人事制度、旧ＳＧＮ人事制度）が併存する状況を是正するということだけではなく、会社そして個人の双方が「新しいセガ」に生まれ変わるために最優先すべき取り組みの一つと位置付けています。

今一度「セガらしい挑戦・創造・成長」の好循環を育み、変化を恐れず挑戦し、成果を生み出すことができる 社員、組織に変えていくためには、例えば「役割やキャリアの明確化」「柔軟かつ大胆な抜擢」「脱年功」等の思想、成果を挙げた社員、プロジェクト、組織に対してしっかりと報いることのできる仕組みが必要だと考えています。と発表しています。

驚きました、頑張ればどんどん上がっていくと言われた現行の新人事制度実態は、頑張った人に報いてなかったようです。

それでは今度の新しい新人事制度はそこが改善されるのでしょうか？

制度の概要３点

等級制度

一般職はＬＰ、ＧＰの２階層（以前はＡ１・Ａ２・ＭＳ１・ＭＳ２の４階層）

管理職はマネジメント職が３階層、スペシャリストが３類型（クリエイティブ、ビジネス、エキスパート）になり階層が２階層へ

評価制度

一般職は成果評価・成長度評価

管理職は役割遂行度評価・行動特性評価・志

報酬制度

本給・評価給・資格手当・職責手当などを基本給に一本化

昇降給は各等級の評価に応じたポイントによるステージ制

各等級の上限は決まっているし、昇格についても上長の推薦がなければ上がらず、すべては、直属の上司次第になってしまっている。現在と変わりない。

昇給がステージ制になり各ステージのポイントの差が２０ポイント、ステージを一段階アップする為には、１年で２０ポイント獲得しなければなり

ません。しかし２０ポイント獲得するにはＳＳもしくはＳ評価を得なければなりません。会社の評価の目安として、ＳＳとＳをあわせても一般職で全体の５％、管理職では１０％しかいません。つまり今までは毎年少なからず昇給をしていましたが、これからは何年かおきにしか昇給することは無くなります。評価が悪ければ現状維持もしくは最悪下がっていってしまいます。

組合「移行時の給料はどうなるのか、またこの等級レンジからはみ出ている場合はどうするのか」

会社「移行時給料はそのままの額をスライドする。レンジからはみ出た部分は調整給として支給する。その等級にいる限りは調整給をずっと払い続ける。昇格した場合はその額を本給に入れた状態で次の資格に当てはめる。降格した場合は調整給もなくなる。」

組合「降格について一般職で会社の定める降格の定義に当てはまった場合原則降格とあるが降格させるのか」

会社「原則なので絶対ではない、一般職でこれに当てはまる人は一人とかそもそもそこまでいません。管理職の場合は今までもそうでしたが原則でなく降格します。」

組合「退職金基礎額はどうなるのか。」

会社「今までどおり昇給額が基礎額に乗る。今までと変わりない。」

組合としても制度が提示されたばかりなのでこれからどのような問題があるかあげていき会社と交渉していきたいと思います。組合のアンケートも行っていますので是非回答をお願いします。

組合アンケートの回答一部抜粋

「コロナ禍のどさくさ紛れの改悪にもほどがある。今までが良い人事制度だったのでは無いなら成果を出せなかった人事責任者は責任を取るべき。」

「一般層の相対的な評定制度はそのまま残るため、会社の主張する成果を出した人に報いる制度とはなっておらずただの賃下げ施策に見えます。」

「結局のところ、人件費をどうやって削るのかというところに焦点を当てた人事制度だと考える。実力のある人が評価される制度とあるが、結局実力をどうやって図るのかが不透明であり、かつ部門によって差が出てくるはずなので賛成とは言い難い。」

「人事制度だけでなく、プロジェクト認可判断・計画を分析して変えないと簡単に売上に繋がりはしないと思う。」

「今のセガのやり方だと人がついていけなくなるからもっとセガは社員の意見を聞け」

「あぁ、またやっているのか、という場当たり的な感覚しか無いです。ＳＥ売却にはとても失望しました。」

「年功序列は必ずしも賛成ではないが、かといって最低レベルに減額される可能性があるのもどうかと思う。」

「仕事を数字で出せる部署は評価されるが土台を支える部署は評価されないから。」

今現在のアンケート回答

今回の新人事制度に賛成か反対か

賛成　１５％
反対　６２％
どちらとも言えない　２３％

アンケート回答お願いします。

掌編小説

夜中の覚悟

仙洞田一彦

夜中に多くて三度トイレに立つ。枕もとの時計を見ると、午前三時を少し過ぎたところだった。トイレから戻ってきて、布団にもぐりこむ。問題はその後だ。下手をすると、考えが次から次へと脳裏を駆け巡り、長い時は二時間くらいその考えに付き合わなければならなくなる。希望が持てるような考えよりも、不安な内容が圧倒的だ。

ごみ屋敷だ。部屋を片付けなければならない。このままでは床が抜けるかもしれない。眠れないほど考えても、朝になって片付けをするわけではない。水洗トイレのレバーが元の位置に戻っていないで、流れっぱなしになっていないか。こういうのは寒さに震えながらも、もう一度起き上がってトイレに行き確認すればすむ。すむはずだが布団にもぐりこんだとたんに、今度は手を洗った後に水道の栓をしっかり締めたかどうか気になったりする。もう一度起き上がって確認する。

せめてものさいわいは、翌朝目覚めてから、その思いに引きずられないことだ。かなり深刻な思いでも、朝の光と共に闇が消えていく。でも考えなければならない深刻な問題を、こうしてやり過ごしてしまうのは長所であるかもしれないが、何事も中途半端な私の短所でもある。

十年か、二十年前に読んだ小説の内容が、このごろ気になり始めた。自分も幸福になりたい。妻も幸せにしたい。男は不幸を望んでいたわけではないが、自分の考え、行動が妻に伝わらず、妻が自殺してしまう話だ。

私も不幸を望んでいたわけではないし、自分だけ幸福になればよいと思っていたわけではない。だが離婚になった。

結婚後すぐは共働きだった。子どもができて妻は仕事を辞めた。二人分の収入は得られないが、長時間の残業をして家計を支えた。子どもが二人になり、三人になった。家には寝に帰るだけのようになった。遊んでいたわけではない。私は外で働き、妻は家事育児と、分業のつもりでいた。分業は、分業でなく夫婦の間の距離を広げ、溝を深めていただけだった。娘たちが中学、高校と進んだ。子育ての手が離れ、妻も働くようになった。

その時が離婚の時だった。結果は今の一人暮らしだ。あの小説のような自殺こそなかったのは幸いだが、主人公の男のことを考える。

小説の男も妻のことを考えていなかった。考えているつもりだったが、本当は考えていなかった。本人は深刻に考えているつもりでも、考えるべきことの半分しか考えていなかったのだ。本当は二人の間の距離やずれを、妻の心を見つめていなければならなかったのかもしれない。

真冬の今、眠れないで、右に左に寝返りを打っていると、温まった布団の中に冷えた外気が入って来て余計に眠れなくなる。これが明け方の五時ごろだった

ら、寝不足は昼寝で補えばいいと考えて、起きてしまうこともある。寝返りを打とうが、起きてしまおうが、独り暮らしだから一向にかまわない。今夜は眠りに落ちそうにない。無理に眠ろうとはしない。そうすると、かえって眠れなくなる。考えが思い浮かぶままにする。

――コロナに罹ったら、それはそれでいい。と、次に浮かんだのは新型コロナのことだ。

同じアパートに住む人、かつての職場の同僚たちの様子を見聞きして、傍目ながら介護は大変だと思う。今は一人暮らしが出来ているが、介護される側に、いつなってもおかしくない年齢だ。娘たちには何もしてやれなかった今、出来ることはコロナになって手遅れになることかも知れない。病院通い。養護施設通い。日常的な介護。こうなれば経済的な負担ばかりでなく、娘たちの生活そのものを破壊してしまう。介護疲れから起こる犯罪は、人の命を最優先になどという言葉の重さを、横断歩道を渡りましょうくらいの建前、重さに変えてしまうようだ。娘たちにそんな事件を起こさせたくない。

「――の家」と書いてある介護施設の車がアパートの前に止まる。女性が降りてきて、私と同じ階の一室に行く。そこは母と娘の二人が住んでいる。母親は恐らく九十歳前後。娘は五十歳代後半か。娘は母親がいつ倒れても支えられるように、手をなかば前に出して歩く。母親を、できるだけ自分の力で歩かせようとしているのだろう。手は貸さない。娘と迎えの女性は、母親の両側について歩く。部屋を出て、廊下を歩き、階段を降りて、車のところまで歩いて行く。夕方、同じ車が来る。車の中から施設の職員と思われる女性が先に降りて、件の母親に手を貸して降ろす。電話で知らせてあったのだろうか、それとも帰ってくる頃だと、窓から見ていたか。娘が車のところに来て、階段を上る時は車で送ってきた女性と娘が両側に立って一緒に上る。毎日ではないようだ。母親は認知症らしい。あの様子では、母親が家にいるときは、食事から、下の世話から、風呂、なにからなにまで世話をしなければ母親は生きていけないだろうと想像する。私がこのアパートに入った頃は、夫婦二人で住んでいた。その後夫が亡くなり、いつしか母娘の二人暮らしになっていた。娘は母親の介護のために戻ってきたのだろうか。あいさつ程度で話したことがないから分からないが、家族があって、介護のために戻ったのか。独身だったにしても仕事を辞めて戻ったのかもしれない。それからおそらく十年、あるいはそれ以上の時間が流れている。

私の親は亡くなっているので、私はその母親の姿に自分を重ね、母親に付き添う娘に、私の娘たちの姿を重ねる。

このアパートに来て三十年が過ぎ、自分の始末を考える年齢になってしまった。去年の年明けから新型コロナ感染が起こった。いつ感染するか分からない

恐怖がある。新型コロナがなくっても、交通事故で命を失う危険性はある。しかし、コロナ禍は、あらたな未知の死を近づけた。自覚症状のないガンで、気づいたときは転移して手の施しようがなかったということもある。しかしガンには他者への感染ということはない。無症状者から感染するというのは、逃げようがないと恐怖を駆り立てられる。

時間をかけて娘たちのために何かをする。その何かを考えることも大事だが、いつ襲われるか分からないコロナ禍で、すぐに何かをしてあげられるのは、コロナで手遅れになることだ。早く死ねば娘たちは、私の介護の時間を不要にし、その時間をプレゼントすることが出来る。しかし、このアパートに母娘で住む、そこの娘のようであれば の話だが。うちの娘は、父親の介護など初めから考えていないかも知れない。それでも、父親を介護しなければならないかも知れないぐらいは考えていてくれるだろう。気持ちの上での負担ぐらいは減らせるだろう。きっと気持ちは軽くなるはずだ。そのくらいは娘に期待しても良いだろう。そうだ。手遅れになることだと覚悟した。

長い夜が明けて、いつものような朝が来た。熱は出ていない。コーヒーの味もわかる。香りも分かる。今日は可燃ごみを出す日だ。アパートの前の道にあるごみ集積所に、ごみの詰まった袋を手に提げて持って行った。すぐそばだから、マスクをしないで出た。いつも顔を見かける近所のオヤジも膨らんだごみ袋を抱えて歩いてきた。

「おはようございます」と挨拶した。向こうも笑顔を浮かべて「おはようございます」と挨拶を返してきた。マスクをしていない。私が鴉除けの網をあげて、その下にごみ袋を置いた。網を上げたまま、私は「どうぞ」といった。

「あ、どうも。どうも」といって、そのオヤジも近づいて、網の下に持ってきた袋を押し込んだ。

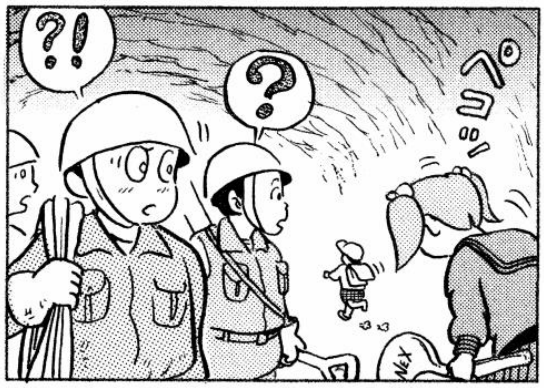
アパートに戻る時、あのオヤジの唾が掛からなかったかなと心配になった。網を持ち上げていた私の顔に、思ったよりもそのオヤジの顔が近づいた。近づきすぎた。部屋に入るなり、手の裏表、指の間をいつもより時間をかけて洗った。顔も洗い直した。うがいも「ガガアーッ」と大きい声をたてながら繰り返した。

うがいしながら、夜中の、手遅れになることだという覚悟を思い出した。覚悟が本当ならこのうがいはなんだ。本当は手遅れが怖いんだろう。私の覚悟なんて、いつもそんなもんだという思いがよぎったとたん、うがいしていた水をゴクリと飲み込んでしまった。

4こま漫画

川﨑よしき

おはようございます
タッ
タッ
タッ


?!
?
ペコ

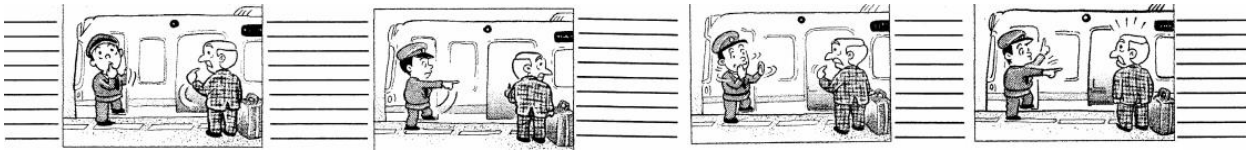
ここに
電車を止めてくれないか
タッ
タッ

テレワークかい？
ジャ〜ッ
ドタッ
たまには外に出て運動しないと身体を壊しちゃうよ

仕事が忙しくてそれどころじゃないんだ
大変だねぇどんな仕事なんだい

職探しの仕事だよ
収入が無きゃ大家さんに家賃が払えなくなる

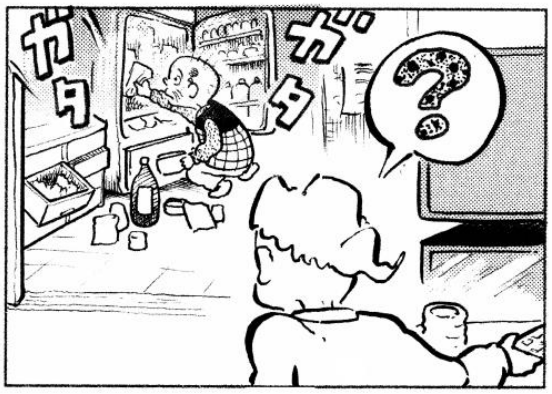
そりゃ大変だあたしも手伝うよ
手分けして面接に行こう
カッ



片方の靴下が見つからないがどこへやった？
あるのを履いていればいいでしょ
バタバタ

家に籠っているとパ～ッとしねぇな
ん
パ～ッと
テレビを見てもコロナばかり

どうせ洗濯した時に無くしたんだろ


ガタ
ガタ
？

ん？

どこへ行くの？
ダメですよ
花見だ
スルメ

なんだ
履いていたのか

見ろ！桜がパ～ッと咲いたぞ
おめぇもこっち来てパ～ッと花見しろ
スルメ